

(文：東北大学講師 設楽宏二)

留学生向け講座「日本の文化」の一環で坐禅体験をお願いしているご縁で、森の防潮堤の活動に加わらせてもらっています。試験植樹開始の2012年からコロナ禍の休止期を除き毎年で、再開した今年6月10日の育樹会では学生33名が400本の苗木を植えました。参加したドイツ人のレポートでその意義を記す部分をご紹介します。

「10年で40万本以上の木が植えられたことを思えば私たちの行為はささやか。それでも植えた木の1本が、将来津波襲来時に命を救う可能性はある。長年にわたり年齢や背景に関係なくこのプロジェクトに時間を捧げるため人々が集まってきた理由だ。日本に戻る機会があれば、私たちの植えた木がどれだけ成長したかを見に来たい」



6月10日、40名の留学生が岩沼に集合し木を植えました



400本植樹しました (岩沼千年希望の丘)

5月27日 坐禅体験・ポット苗づくり



坐禅体験・座り方の説明



輪王寺園場にてポット苗を観察



皆でポット苗づくり

編集後記

輪王寺 <http://www.rinno-ji.or.jp/>



6月1日撮影

モリアオガエルの卵塊 (茶室前のモミジの枝)

モリアオガエルの産卵は、池に突き出ている枝先に集団で泡状の卵を産むという独特のスタイル。一つの卵塊に300～500個の卵を産みつけ、1週間程でふ化しオタマジャクシとなって池に落ちます。今年は20個くらいの卵塊をつくりました。

【経世済民】輪王寺チャンネル

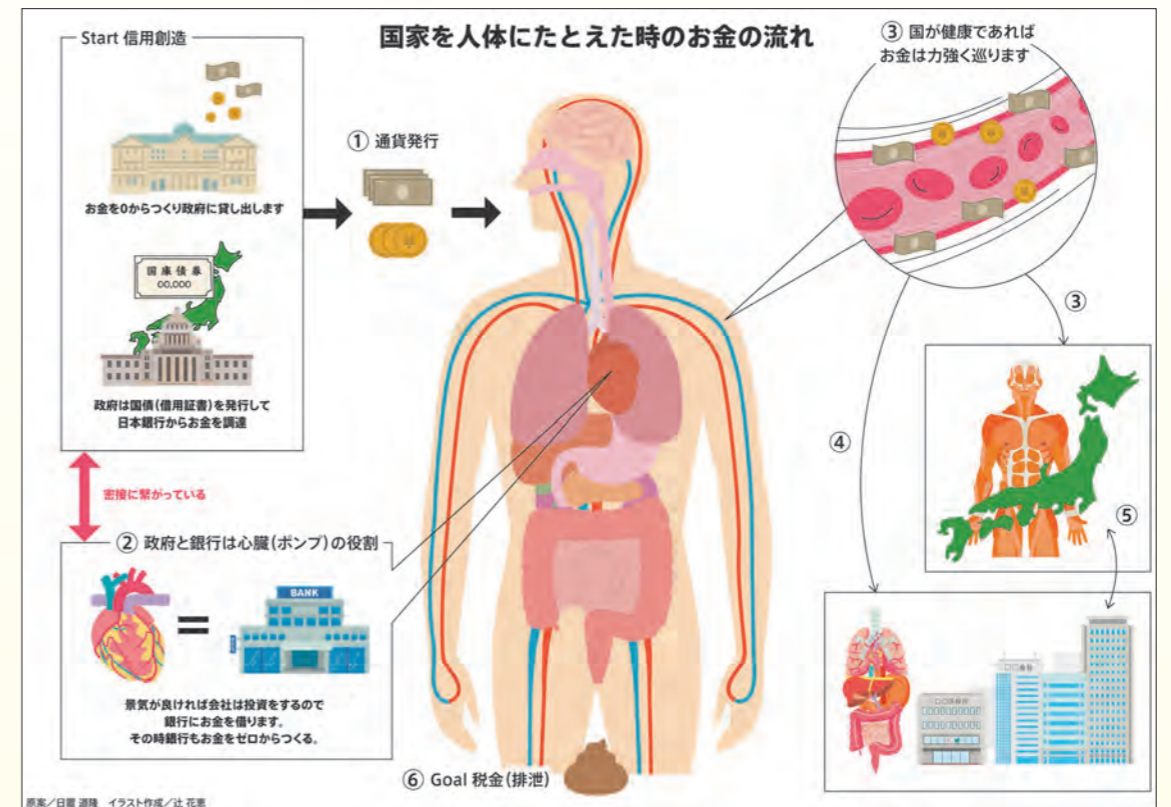
YouTubeチャンネルを開設しました。覗いてみてください。右のQRコードからご覧いただけます！



税金ってなに？ —実際に行われているお金の流れをみると税金の役割が見えてきます—

曹洞宗の和尚がよく唱えるお経は「修証義」です。開祖道元禅師のお言葉が凝縮され、一般の方々も理解できるよう編纂されています。その冒頭に「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり」とあります。これは、仏教者は「生と死」の道理を身体で会得することが大切であり、この根本を明らかにしなければ、悩み苦しみから解放されないということです。政府のような経済政策に携わる方々がまず学ぶべきことは、お金の生と死、つまり現実の社会でお金がどのようにして生まれ消えるのかの仕組みでしょう。お金の現実の流れすら理解していないようでは、正しい経済政策を打てるはずがありません。

その年度の4月から予算が執行されますが、その年度の徴税は、年度末に行われます。時系列で考えても、税金は政府の負債を返済し通貨を消滅させるもので、国家予算の財源にはなり得ません。それでは、税金の役割とは何なのでしょう？ ここに、国家を人体に例えて栄養（お金）が回る仕組みを表したイラストがあります。(イラスト参照)



- ①徴税より先に政府が国債を発行して「無からお金を創り出し」政府支出をします。
- ②政府と銀行は国家の心臓でありポンプ役です。心臓（ポンプ役）である政府や銀行は、適切にお金を供給し、政府は法律や税制によって、なるべく血液（お金）が隅々まで行き渡るよう力強く稼働しなければなりません。

- ③お金は血液となり栄養となって、各々の器官（地方自治体・企業）や家計を巡り、企業は活発に稼働します。企業が得た利益から人々は給与をもらい、さらにそのお金でモノやサービスを買うことによって、身体（国家）が活発になります。
- ④人々がモノやサービスを買う力（筋肉）が強ければ、企業は儲けを目指して設備投資や人材投資をします。銀行は信用創造によってゼロからお金を創り出し、企業に貸し出します。そして賃金が増えれば私たちの預金が増えます。
- ⑤家計と企業の共栄で国家はますます活発になり、働く人々の力もみなぎってきます。私たちがモノやサービスを買う力（需要）が経済を引っ張ります。
- ⑥栄養が過剰になりすぎたり（過度のインフレ）、大きい器官（大企業）の一部にだけ栄養（お金）が集中すると身体（国家）の健康が損なわれます。そこで税金（排泄の手段）が登場します。栄養（お金）が過剰なところから税金を徴収し、お金という情報を消す（排泄）ことによって、身体（国家）の血（お金）の巡りを良くすることができます。

まず私たちが知るべきことは、政府支出が先であり、税金を納めるのが後であることです。そして税金の役割は、人体における排泄の役割のように、世の中のお金の流れを健全に調整すること（景気の調整や貧富の格差是正）にあります。入口ではなく出口、決して財源ではありません。どうやら私も含め、ほとんどの皆さんがカンチガイしていたようです。

生態系は、生き物たちが常に生滅を繰り返しながらダイナミックに存続しています。その中は、生と死の繰り返しによって健全に保たれています。人体では、栄養が体中をグルグル回って身体の隅々まで行き渡ると同時に、老廃物が身体の隅々から集められて排泄されるので、私たちは健康を保つことができます。一カ所だけに栄養を偏らせても、身体は健康になりませんし、かえって不調になります。このように考えると、栄養バランスが適切に供給され、調整のための排泄がいかに大切なかがわかります。それらの調和によって自然も生き物も生かされているのです。

世の中では、お金という情報が常に生滅（取引つまり需要によってお金が誕生し、返済によってお金が消滅します）を繰り返しています。約束が守られてお金が銀行に返済されるとお金が消えます。お金と経済も、実は自然の掟に従って流れることが大切であることがわかります。世の中が健全に保たれるためには、私たち一人一人の意識においても約束を守ることが大切です。なぜなら、お金は約束事によって生まれ、約束が果たされると消えるという仕組みになっているからです。

コロナ禍は、私たちに多くの事実をさらけ出してくれました。そして、多くの国民が経済政策への認識を変えつつあります。世界中を見渡しても、二十数年間国内総生産（GDP）がまったく成長せず、国民の実質賃金が15%以上も下落している国は日本だけです。見えてきたことは、国政に携わる方々、財務省のお役人、財務省に仕える御用経済学者、多くの政治家、マスコミ、経済評論家といったいわゆるエリートさんたちが、お金と経済をまったく理解しないで国家運営をしてきたこと、なぜかエリートさんたちが現実を見ることをしない反知性的な姿勢であることです。しかも、いまだに現実に行われている現代貨幣の仕組みを勉強することすら拒否している。これらが過去20数年間の日本衰退の根本原因でしょうか。ドイツの社会学者マックス・ウェーバー（1864-1920）は、著書「官僚制的支配の本質、諸前提および展開」の中で官僚制を分析し、「組織は、効率性と合理性を徹底的に追求すると、かえって非効率で非合理的なものになってしまうことが、往々にしてある」そして、「人間というものは、厳格に規則に従って仕事をしているうちに、規則に従うことそれ自体が自己目的化するようなことが往々にしてある。規則は、手段に過ぎないのに、手段が目的に変換されてしまう」と、説いています。日本の多くのエリー

トさんたちは非常に優秀なはずですが、このジレンマに陥ってしまったのでしょうか。財務省が主導する経済政策（本来は財政民主主義が憲法に定められている・これは憲法違反）が日本国を破滅に追い込むという、本当に恐ろしいことが進行しているのです。

● 私たちはどうすれば良いの？

今の経済政策は、お金へのカンチガイの上に行われています。もう気づきましょう!! 過去30年間の緊縮財政は明らかに日本国を壊してきました。私たちが皆カンチガイしてきました。今ここで気づかなければ、私たちの子々孫々に大きな禍根を残してしまうのです。私たちが未来への夢と希望を創り出さなければならないのです。



三橋貴明先生の仙台勉強会

— 面白いほどよくわかる「お金と経済のしくみ」 —

1月29日、180名もの参加者が集い、三橋先生がお話しになりました。なぜ過去30年間、日本は停滞に陥ったのか。お金と経済についてのカンチガイが「日本」を壊してきました。多くのエライ人たちが通貨発行の仕組みや税金の意味もわからずに国家を運営しています。しかし、根本原因を理解すれば解決できます。政府が日本の国力に見合ったお金を使うだけです。今こそ正しい貨幣観を身につけ、明るい未来を創りましょう!! 子供たちのために。



三橋貴明先生と正しい経済の勉強会